

道徳心と利他性の数理解析

自動機械モデルによる規範の分析

内田智士（倫理研究所研究員）

はじめに

前号の『倫理研究所紀要』には、『道徳心と利他性の数理解析 道徳心はどのように社会的規範に発展するのか』と題した小論を投稿し、個人の持つ道徳心がどのようなプロセスを経て社会に広まり、社会的な規範として定着するのか、モデルを用いて議論した。

そのモデルの中では、集団中の全メンバーが、他の全メンバーが行った行動についての情報を完全に知っているという、情報の公共性に関する仮定が置かれていた。この仮定は、集団が（村社会や小さな組織のような）比較的小さなものであれば十分に現実的なものであるが、現代社会のように、隣に誰が住んでいるのかも分からないような匿名性の高い状況では成り立たない。

本稿では、前著の解析で前提とされていた情報の公共性に関する仮定を緩めて、情報が共有されていない状況であっても、道徳が機能を果たすことができるのかについて、数理モデルを構築して調べる。背景にある問題意識の詳細は、前著を参照していただきたい。